

平成19年度冬季における琵琶湖北湖での ニゴロブナ当歳魚の資源状況

根本 守仁

◆背景・目的

琵琶湖では、減少したニゴロブナ資源の回復を図るため、様々な事業が実施されている。当場では、それら事業の成果を評価し、今後の増殖対策を検討するため、平成6年度から毎年、琵琶湖北湖においてニゴロブナ当歳魚の資源尾数を調査している。本年度も同様な調査を実施し、過年度の結果と比較した。

◆成果の内容・特徴

- ・当歳魚資源尾数の推定は、標識放流調査により行った。資源尾数推定のための標識種苗は、(財)滋賀県水産振興協会によって生産された種苗であり、平成20年1月22日に、琵琶湖北湖6水域へ体長 89.99 ± 10.08 mm (平均体長±標準偏差)の種苗、合計32,000尾をALC標識を施して放流した。
- ・再捕調査は、平成20年2月18日～4月19日に、琵琶湖北湖の沖合で沖曳網により漁獲されたニゴロブナを対象に行った。
- ・調査したニゴロブナは10,481尾であった。鱗の輪紋の乱れを観察することにより年齢査定を行ったが、当歳魚は5,532尾であった。
- ・ALC標識の調査を行ったところ、89尾が上記の標識放流種苗であった。
- ・以上の結果をもとにPetersen法により当歳魚資源尾数を推定したところ、資源尾数と95%信頼区間は1,643,000尾<1,989,000尾<2,518,000尾であった。

◆成果の活用・留意点

平成19年の当歳魚資源尾数が少なかった原因としては、(財)滋賀県水産振興協会が実施しているニゴロブナの種苗放流について全長120mm種苗の放流尾数が平成18年度と比較して少なかったこと、天然由来の資源尾数が少なかったことが考えられる。

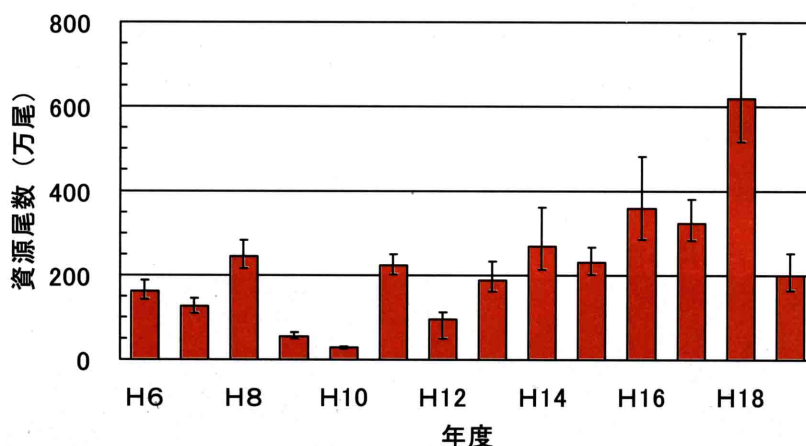


図 ニゴロブナ当歳魚資源尾数の推移